第２章　閉鎖経済における国民所得水準の決定

（準備学習）

・マクロ経済分析における「短期」と「長期」はどのように違うでしょうか。

2-1　45°線分析

2-1-1　国民所得水準の決定

①　支出 GDP（GDE）の構成項目を思い出しながら、短期の総需要に影響を及ぼすマクロ経済変数を挙げなさい。

②　限界消費性向（MPC）という概念を用いて、ケインズ型消費関数を定式化しなさい。

③　平均消費性向（APC）を定式化しなさい。また横軸に所得、縦軸に消費をとったグラフで消費関数を描き、MPC と APC の大きさを図で示しなさい。

④　貯蓄関数、限界貯蓄性向、平均貯蓄性向を定義しなさい。

⑤　投資、政府支出が変化しないとして、財市場の均衡国民所得を求めなさい。

2-1-2　国民所得水準決定（グラフによる理解）

①　投資、政府支出を一定として、横軸に国民所得（Y）、縦軸に財の総需要（YD）をとったグラフで総需要の大きさを表しなさい。

②　短期モデルにおいて、横軸に国民所得（Y）、縦軸に財の総供給（YS）をとったグラフで総供給の大きさを表しなさい。

③　①②より、均衡国民所得の水準を図で示し、財市場の不均衡がどのように調整されるか考えなさい。

2-1-3　節約のパラドックス

①　マクロ経済学における「節約のパラドックス」とは何か、簡潔に説明しなさい。

②　全ての国民が限界貯蓄性向を同じだけ上昇させたとき、経済全体で貯蓄が増加するかどうか確かめなさい。

2-1-4　財市場と労働市場

①　短期における「過少雇用均衡」とは何か、説明しなさい。

②　なぜ､過少雇用が発生しているのか､「非自発的失業」という概念を用いて説明しなさい。

2-2　政府支出増加の効果

2-2-1　乗数

①　政府が支出を⊿G だけ増加させると、財市場の均衡国民所得はどれだけ増加するか、⊿G を用いて示しなさい。

2-2-2　乗数効果の発生過程

①　2-2-1 における乗数効果がどのようなプロセスで発生するのか、必要であれば定式化して説明しなさい。

②　①のプロセスを 45°線モデルのグラフを用いて説明しなさい。

2-2-3　均衡予算乗数

①　均衡予算乗数とは何か説明しなさい。

②　均衡予算乗数が１に等しくなることを示しなさい。

2-3　投資関数

①　企業の実施する設備投資と市場利子率の関係を説明しなさい。

②　一国の投資の規模と市場利子率の関係を説明し、マクロの投資関数を定式化しなさい。

第 2 章　練習問題（1）

1　以下の文章のうち、正しいものを選びなさい。

ケインズ型消費関数では、
（ア）所得が増加すると、平均消費性向も上昇する。
（イ）所得が増加すると、限界消費性向は上昇する。
（ウ）限界消費性向が上昇すると、平均消費性向も上昇する。
（エ）限界消費性向が上昇すると、限界貯蓄性向も上昇する。

2　ケインズ型消費関数において所得が 1500 から 2000 に増加したとき、貯蓄も 50 から 250 へと増加した。このとき、限界消費性向はいくらであったか、求めなさい。

3　ケインズ型消費関数において、基礎消費（独立的消費）が 75，限界消費性向が 0．4 であったとする。平均貯蓄性向が 0．35 となるのは所得がいくらのときか。

（ア）　300　　（イ）　375　　（ウ）　600　　（エ）　1500

4　所得 Y と消費 C に関するデータが次のように与えられているとする(租税はゼロとする)。

Y	100	150	200	250	300	350
C	110	155	200	245	290	335

（単位：兆円）

(1) 消費関数を求めよ。
(2) 貯蓄関数を求めよ。
(3) 貯蓄水準が 25 兆円であるとする。このとき、可処分所得はいくらか。

5　次のようなマクロ経済モデルを考える。

$$Y = C + I + G$$
$$C = 50 + 0.4Y$$
$$I = 20,\ G = 30$$

（1）政府支出 G を 30 から 45 に増やしたとき、均衡産出量 Y はどれだけ増加するか。

（ア）　9　（イ）　15　（ウ）　20　（エ）　25

（2）完全雇用産出量を 200 とする。完全雇用を実現するために、政府はあとどれだけ政府支出を増加させる必要があるか。

（ア）　20　（イ）　24　（ウ）　40　（エ）　48